

第1回財政改革小委員会議事概要

(開催要領)

1 日時：平成19年3月16日(金) 15:00～16:30

2 場所：県庁9階教育委員室

3 出席者

| | |
|-------------------|--------------|
| 委員 阿部頼孝 (敬称略、以下同) | 県 渡邊輝企画総務部長 |
| 井関佳穂理 | 石川茂企画総務部次長 |
| 加渡いづみ | 佐野正孝財政課長 |
| 桑原恵 | 大貝誠治財政戦略室長 |
| 若山浩司 | 小笠原章行政経営戦略室長 |

(会議次第)

1 開会

2 挨拶

3 議事

財政構造改革について

4 意見交換

5 閉会

配付資料

資料1 財政構造改革について

資料2 財政構造改革について(参考資料編)

(議事概要)

委員

本県は、ある程度財政的予想のもと、取り組みが早かったと認識しているが、それよりも国の経済情勢のペースが速くなったといえる。かつては、借金をしても事業を進めて景気をよくし、経済を回転させる方がよいと言われていたこともある。最近、多少、景気はよくなったが、もっとスピードを上げて財布の紐をしめていかないと厳しいと思われる。

委員長

税収が増えたといっても、大阪も増えてきてはいるが東京ほどではない。私も本県は、まじめにされてきたと思うが、まだまだしめるべきところをしめる必要がある。

委員

単なるカットでは地方は縮む一方であるので、優先順位と技術的改善により改革を図る事になるのではないかと。

委員

これまでは、目標値よりも節約できているが、何をもってできたのか。

県

歳入では、広告料収入や未利用財産の売却、歳出では、既存ストックの活用やP F Iの導入、公共事業のコスト削減や重点化、一石二鳥三鳥のメリハリ予算によるものである。ほかに、職員数の減や特別職の給与カット、指定管理者制度の導入が挙げられる。

委員

財政はどのぐらいの厳しさなのか。どの程度節約する必要があるのか。節約できる限度のイメージとして、大きく膨らんでいる所をしめるのか、これ以上節約できないところまで来ていて、別の歳入確保の方法などを考える必要があるのか。

県

基金は、予算執行の際に節約などを行っても、当初予算以後、元の規模に戻すことができず、まもなく底を付く状況にある。新たな対策を講じなければならない時期にある。

委員長

基金のない団体はもっと早く手だてを講じていると思われるので、次回において、事務局に他県の先例資料を作成してもらい、それを参考に徳島のやり方を議論してはどうか。

委員

2つ提案がある。

1点目は、単年度のキャッシュフローを±0に持って行けるような手だてを考えることと、資産と負債を明らかにして不良資産か投資的資産なのかを見極めるべきではないか。

2点目に、高齢化が全国より進んでいる本県で、今後、扶助費を減することはできないだろうし、高齢化を止めることは無理と思われる。その中で、高齢者から所得税を払ってもらえるつまりは、働く環境づくりや扶助費が税として戻ってくる仕組みづくりを講じてみてはどうか。

県

次回、売却対象財産の資料をお示ししたい。

委員

県債の残高管理と公債費の比率による対策が必要と考える。具体的に残高をどのくらいにしていくのか、公債費をどのようにするのか具体的目標値を立てるべきではないか。

委員

徳島県は大金持ちはいないが、貯蓄率は高く、小金持ちがいるので、活力のある今のうちに将来を考えてもっと苦勞している団体の例を見て徳島バージョンを作っていくべきではないか。

節約一辺倒では立ち行かなくなるので、どこかで節約して、将来に向けての先行投資をして、みんながやっていけるようにすべきではないか。

委員長

次回までに、事務局に他県事例やエッセンスをまとめていただき、それを参考に議論し、徳島の案を作っていくこととしたい。